


マラウイ共和国  
公衆衛生プロジェクト  
計画打合せ調査団報告書

平成7年11月

JICA LIBRARY  
  
J 1136775 (2)

国際協力事業団  
医療協力部

JICA  
518  
98  
MCN  
LIBRARY

医協三
J R
95-32







1136775 [2]

マラウイ共和国  
公衆衛生プロジェクト  
計画打合せ調査団報告書

平成7年11月

国際協力事業団  
医療協力部



## 序 文

マラウイ共和国公衆衛生プロジェクトは、平成6年9月1日から5年間の協力期間で同国保健省公衆衛生研究所（CHSU）において、同国保健医療政策上重要課題となっている乳幼児死亡率の低下を最終目標とし、生化学・血液学分野の検査技術の移転、微生物学・ウイルス学・免疫学分野の検査技術の移転、そして疫学における技術移転を実施しているものです。平成7年11月、協力開始後約15か月あまりが経過し、上記技術移転の活動が軌道に乗りつつあるところ、国際協力事業団は、本プロジェクト派遣中の専門家の活動状況、当国側の対応状況など現状を確認し、プロジェクト実施上の問題点把握と今後の対応策について両国双方で協議することとし、平成7年11月12日から同年11月26日までの日程で、東京女子医科大学医学部国際環境・熱帯医学教室教授小早川隆敏氏を団長として、計画打合せ調査団を派遣しました。本報告書は、その調査結果を取り纏めたものです。ここに、本調査にご協力を賜りました関係各位に深甚なる感謝の意を表しますと共に、プロジェクトの効果的な実施のために、今後共、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

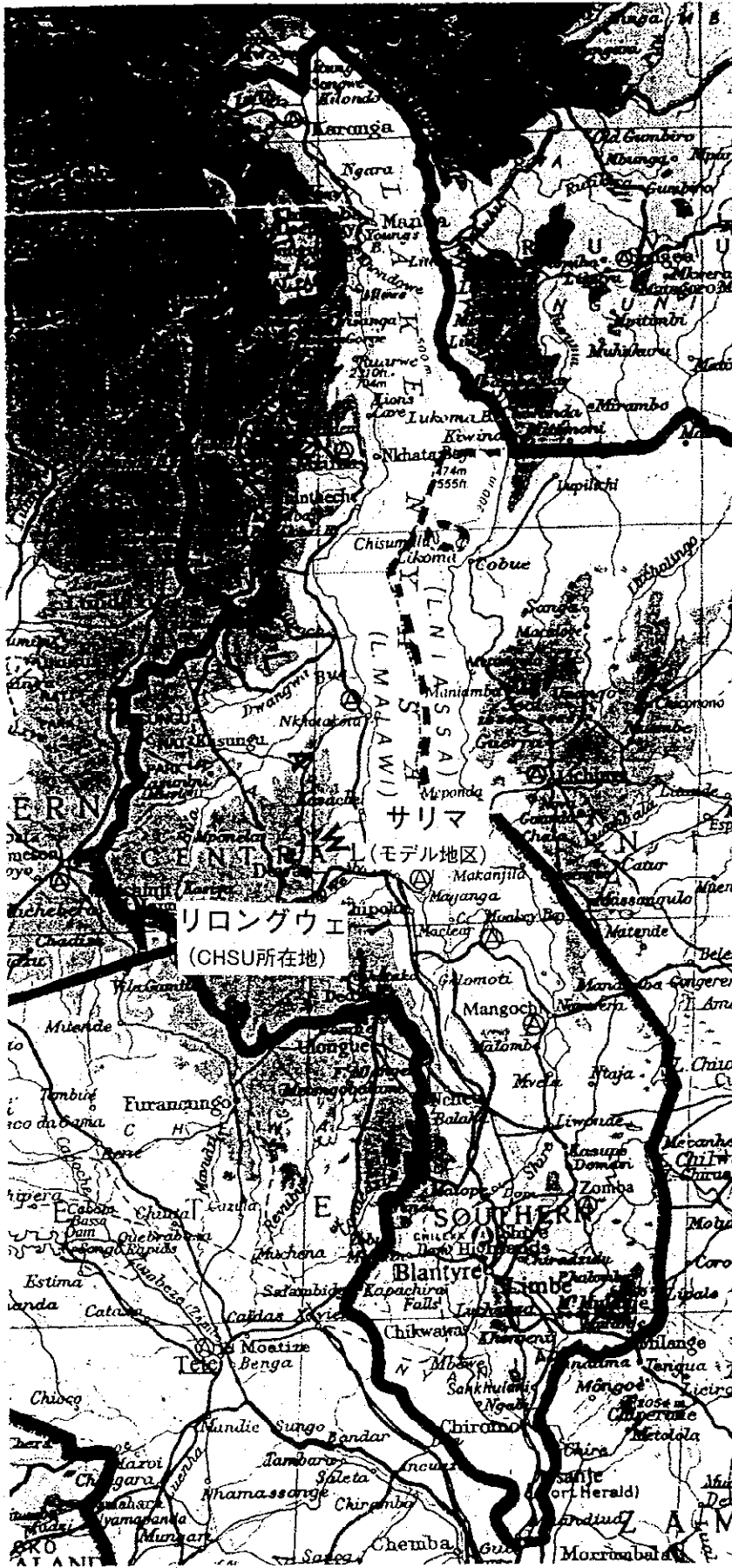
平成7年11月

国際協力事業団  
医療協力部長 平良専純

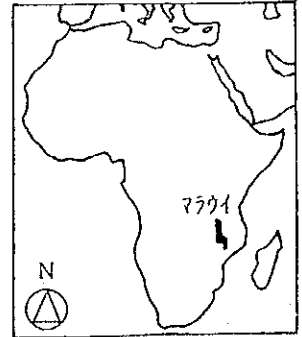




# MALAWI



KEY PLAN



0 50 100 150 200 250 300 350 400 Kilometres



# 目 次

## 序 文 地 図

1. 計画打合せ調査団の派遣	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	1
1-3 調査日程	2
1-4 主要面談者	3
2. 総括報告	5
3. プロジェクト進捗状況	6
3-1 専門家の活動報告	6
3-2 建物施設等	9
3-3 専門家派遣	9
3-4 研修員受入	10
3-5 資機材供与及び利用状況	10
4. 暫定実施計画（T S I）及び詳細年次計画	11
5. 合同委員会（JCC Meeting）報告	12
5-1 討議事項	12
5-2 S D Hの実施体制の確認	12
5-3 実施上の問題点	12
5-4 主な協議決定事項	13
附属資料	
① 協議議事録	17
② JCC Meeting 議事録	32



## 1. 計画打合せ調査団の派遣

### 1-1 調査団派遣の経緯と目的

マラウイ共和国（以下、マラウイと略す）では、プライマリーヘルスケア政策を実施中で、人口の80%が基礎医療サービスを受けているとされている（国連人口基金、1991年報告）。その中でも母子の医療サービスは特に力を入れているが、栄養失調、マラリアなどが蔓延し、乳児死亡率は1987年から1991年の間で18%も上昇しており（E I U資料、1993）、保健医療政策上も感染症患者の早期発見とその対策の確立が重要課題となっている。また他のアフリカ諸国同様にエイズが深刻な問題となっており、1993年6月までで、23,300人の患者が報告されているが、これは公式発表としては南部アフリカ諸国中でも最悪の数字である（E I U資料、1993）。同国は、その対策として1988年に世界銀行の融資により国立公衆衛生研究所（CHSU：Community Health Sciences Unit）を設立したが、診断技術及び人材不足のために十分な成果を上げるには至っていない。

そのため我が国は、

(1) CHSUにおける感染症診断技術の向上

(2) モデル地区（サリマ）における感染症疫学調査を通じたサリマ地区病院（SDH：Salima District Hospital）とCHSUとの間のリファラル体制確立

を目的とし、1994年9月から5年間の予定で公衆衛生プロジェクトを実施している。本調査団は、討議議事録（R/D：Record of Discussions）署名から約1年が経過した時点での活動進捗状況の把握と共に、問題点に関するマラウイ側の意向及び計画を確認し、今後の詳細な年次計画を検討の上、暫定実施計画（TSI：Tentative Schedule of Implementation）を策定し、協力計画の見直しを行うことなどを目的とし、1995年11月12日から同年11月26日までの日程で派遣された。

### 1-2 調査団の構成

	担当	氏名	所属
団長	総括	小早川隆敏	東京女子医科大学国際環境・熱帯医学教室主任教授
団員	病院研究所 運営管理	井手 義雄	聖マリア病院副院長
団員	マラリア	金子 明	東京女子医科大学国際環境・熱帯医学教室助教授
団員	協力企画	石井羊次郎	JICA医療協力部医療協力第二課長代理
団員	協力計画	中林 洋一	JICA医療協力部医療協力第二課職員

1-3 調査日程

日 順	月日 (曜日)	移動及び業務
第1日	11月12日 (日)	移動東京発 (JL 411 12:30) アムステルダム着
2日	11月13日 (月)	アムステルダム発 (KL 563 23:35)
3日	11月14日 (火)	リロングウェ着 (12:05) 15:00 JICA事務所にて打合せ及び派遣専門家と打合せ
4日	11月15日 (水)	8:00 保健省表敬訪問 10:00 CHSU視察、派遣専門家と打合せ 14:00 EP&D表敬訪問 14:40 大蔵省表敬訪問
5日	11月16日 (木)	9:00~11:30 合同委員会 (JCC) (於:保健省) 14:00 サリマへ移動 15:00 ヘルスセンター訪問 17:00~18:30 派遣専門家と打合せ
6日	11月17日 (金)	8:30~10:00 ヘルスセンター予定地 (ペンバ地区) へ移動、視察 10:30~11:30 チボカヘルスセンターへ移動、視察
7日	11月18日 (土)	11:00~16:00 リロングウェへ移動
8日	11月19日 (日)	10:00~12:30 団内協議 (ミニッツ案協議) 14:00~17:00 団内協議 (ミニッツ案作成)
9日	11月20日 (月)	9:00~11:30 ミニッツ協議 (於:CHSU) 14:00~17:00 ミニッツ署名、団長主催レセプション 19:00~ ミニッツ作成 [金子団員プラントアイアへ移動]
10日	11月21日 (火)	(団長・石井団員) リロングウェ発 (UM 393 14:05) ハラレ着 (15:10) (他団員) 資料整理 [金子団員リロングウェへ移動]
11日	11月22日 (水)	(団長・石井団員) ハラレ発 (ZB 201 13:50) ルサカ着 (14:40) WHOとの協議 (金子団員) サリマ地区病院 (他団員) KCH、Bottom Hospital 視察
12日	11月23日 (木)	(団長・石井団員) 在ザンビア日本大使館に報告 ルサカ発 (BA052 20:00) (他団員) JICA事務所にて調査報告及び今後の打合せ リロングウェ発 (XL 564 8:40) アムステルダム経由
13日	11月24日 (金)	(団長・石井団員) ロンドン着 (6:20) (石井団員) ロンドン発 (BA 724 8:30) ジュネーブ着 (10:55) (他団員) ロンドン着 (KL 113 8:40)
14日	11月25日 (土)	(石井団員) ジュネーブ発 (BA 725 12:05) ロンドン着 (12:45) ロンドン発 (BA 007 14:30) (他団員) ロンドン発 (JL 402 19:00)
15日	11月26日 (日)	(石井団員) 東京着 (11:20) (他団員) 東京着 (15:40)

#### 1 - 4 主要面談者

(1) 大蔵省

Mr. NTHANI (Principal Secretary)

Mr. KAWONGA (Secretary)

(2) 経済計画開発省

Mr. A. GOMANI (Principal Secretary)

Mr. Y. HASHIMOTO (J I C A Expert)

(3) 保健省

Dr. W. B. MUXIWA (First Principal Secretary)

Dr. W. O. O. SANGALA (Chief of Community Health Services)

Dr. Lester CHITSULO (Chief Research Officer)

Dr. NYANGULU (Controller of Clinical Services)

Mr. P. A. CHINDAMBA (Controller of Preventive Health Services)

Mr. T. L. MWASE (Health Planning Officer)

(4) 公衆衛生研究所 (CHSU)

Mr. F. SALANIPONI (TB programme Manager)

Mr. F. CHINTOLO (Principal Microbiologist)

Mr. C. ZIBA (Malaria Programme Manager)

Mr. SHABA (Bilharzia Programme Manager)

Mr. K. NINDI (CDD Programme Manager)

Mrs. MAGANGA (Assistant ARI/TB Programme Manager)

Mr. CHISAMBA (Laboratory Technician)

Mr. KASALIKA (Laboratory Technician)

Mr. SIYASIYA (Laboratory Technician)

Mr. PHIRI (Laboratory Technician)

Mr. ZUNGU (Laboratory Technician)

Mr. MICHONGWE (Laboratory Technician)

Mr. CHAKANIKA (Laboratory Technician)

(5) サリマ地区病院 (SDH)

Dr. P. Van DESSEL (Former District Health Officer)

(6) WHO

Dr. M. CHUWA (Representative)

Dr. M. T. SHICK (Technical Adviser (CDD/ARI))

(7) 在ザンビア日本大使館

増井 正	特命全権大使
結城 光則	一等書記官
古賀 達朗	二等書記官

(8) JICAマラウイ事務所

木村 精一	次 長
江頭 栄二	所 員



## 2. 総括報告

1994年9月に開始されたマラウイ公衆衛生プロジェクトは、約1年2ヶ月を経過し、本計画打合せ調査団の派遣に至った。開始以来、5名の長期専門家の活躍、3名のマラウイ研修員の日本における研修、日本側現地関係者・国内関係者の支援等により、極めて順調な協力活動の進捗が、日本、マラウイ両国関係者によって確認された。

先ず第一に、プロジェクト拠点であるCHSUの施設整備において、駐車場、焼却炉に加え、専門家執務室、ガス供給等が完了し、現在CHSUの周囲を防護する柵及び冷却室が建設中であり、検査活動を順調に効率よく実施する基盤体制はほぼ確立したといえる。

これに伴い、結核、微生物、寄生虫学等の各検査部門への試薬、関連機材の供与が行われ、それらを用いた検査技術の移転が開始され、中でもサリマ地区の妊婦の健康調査においては、得られた検体を用いての検査技術の習熟、更にそれらの結果を総合的に解析することにより、母親及び乳幼児に対する健康阻害因子の抽出作業が現在進行中であり、最終的に出産状況の報告書を回収することにより、調査は終了する。

本プロジェクトのモデル地区サリマにあるSDHとCHSUとの間に週2回の定期便の運行が現在行われており同時にSDHの検査施設に対しても機材、試薬が供与され、SDHとCHSUとの間のリファラル機能は着実に向上しつつある。

更に、サリマ地区のタ・ペムバに我が国の草の根無償によるヘルスセンターを建設する計画が具体的に進行中であり、実現すれば本プロジェクトによる公衆衛生活動がこのセンターを中心に周囲の地域で展開されることとなる。これに対しては、早い時期にサリマ地区に医師等の専門家を常駐させる必要があると思われる。

プロジェクト開始2年目以降の具体的な疾病予防のための活動としては、現時点では麻疹に対する疫学調査、ワクチン接種拡大計画(EPI)実施体制の実態調査及びマラリア対策への協力に関する計画策定が予定されているが、これらは、あくまでもSDHでの妊婦の健康調査の最終結果より判断されるプログラムへの優先順位との整合性が必要である。

### 3. プロジェクト進捗状況

#### 3-1 専門家の活動報告

##### 3-1-1 概略

本プロジェクトは1994年9月に開始されたマラウイ初のプロジェクト方式技術協力である。協力期間は1999年9月までの5年間で、メンバー構成はチーフ・アドバイザー、ウイルス専門家、臨床検査技師、疫学専門家、業務調整員各1名の計5名から成る。プロジェクト活動の主な目的は、公衆衛生研究所（CHSU）における臨床検査体制の機能強化、モデル地区サリマにおける感染症サーベイランスのネットワークの確立およびCHSUとサリマ地区のリファラル機能の確立である。1995年9月までの1年間に以下の活動が行われたので報告する。

##### 3-1-2 CHSUでの活動

###### (1) 基盤整備

CHSUの保安体制を確立し、プロジェクト作業が円滑に進められるように、1995年3月5日よりCHSUの基盤整備を行った。建物外部の整備として、フェンスの構築、駐車場の設置、看板の設置、新しい焼却炉の設置などを行い、建物内部については部屋の改造によるプロジェクト・オフィスの整備とCHSUスタッフ・ルームの新設、ガス供給の整備、掲示板の設置を行った。この他保冷室の増設を予定しているが、これは1995年9月現在未着工である。なお、ゲートの増設および一部フェンスの完成が遅れている。

###### (2) 医療機材および試薬消耗品の整備

1994年10月25日より、当プロジェクト開始前からCHSUに供与されていた医療機材および試薬消耗品の点検を行い、その一覧表を作成した。また、1995年8月に青年海外協力隊（JOCV）松永隊員に依頼し、オートクレーブその他の医療機材の点検・整備を行った。

###### (3) CHSU検査体制の強化

CHSUにおける臨床検査、特に公衆衛生研究所としての機能強化は、プロジェクトの主要な目標のひとつである。従来より実施されていた結核、細菌学および寄生虫検査（住血吸虫、マラリアを含む）はルーチン・ワークとして続行し、必要に応じてその枠の拡大に努めた。一方、サリマ地区の妊婦検診に伴う臨床検査のうち総蛋白、血清アルブミン、血清グロブリン、マラリア顕微鏡検査、RPR検査、TPHA検査、HBs抗原、HTLV1およびHIVの諸検査は、トレーニングを兼ねてCHSUで行った。なお、尿住血吸虫を含む一般検尿および光比色計を用いたヘモグロビン測定はSDHにおいて同病院検査技師の協力のもとにCHSUの検査技師が実施した。

###### (4) SDHとの定期便の設置

CHSUとサリマ地区とのリファラル機能の確立もまた当プロジェクトの重要な目的のひとつである。CHSUの検査体制の強化のためには十分な検体の供給が不可欠であり、1995年6月6日より週1回サリマとの間に定期便を設け、検体の搬送と結果の報告を行ってきた。7月10日からはこれを月、木の週2回に増やした。なお、この定期便にはプロジェクト専門家にCHSUの検査技師が同行し、CHSUの検査技師がSDHにおいて検体の授受、取り扱いを責任をもって行うようにしている。現在のところ、供給される検体数は限られており、これの増加を見込

むためには疾病の診断や経過観察における臨床検査の重要性を認識させるべくSDHのヘルスワーカーの意識改革が必要である。

#### (5) 結核菌検査に関するワークショップ

結核研究所の藤木短期専門家により結核菌の検査室診断に関するワークショップが行われた(1995年8月14日～1995年8月25日)。ワークショップは主としてCHSUの検査技師を対象にしてCHSUで行われたが、このほかSDHおよびムア病院の結核菌検査の実状点検も行われた。当ワークショップは受講者たちから比較的好意的な評価を得たが、同時にワークショップ開催に伴う種々の問題点も明らかになった。

### 3-1-3 SDHでの活動

#### (1) SDHにおける検査体制の強化

CHSUとSDHとの連携を深めるためには、検体受入れ窓口としてSDH検査室の整備拡充が重要である。そのため当検査室の整備および機材、消耗品の供与を行ってきた。特に検査室の排水設備が不良のため、その改良工事を行った(1995年7月25日)。機材としては、冷蔵庫および光電比色計を供与したほか、必要に応じて試薬、消耗品、事務用品を供給した。ヘモグロビン検査はこれまでの不正確なザリー法に代わって、信頼のおける光電比色計による測定がルーチン化するようになった。

#### (2) SDH検査室との定期便の設置

3-1-2(4)で述べたように、CHSUとサリマ間の定期的連絡を週2回行っている。SDH検査室では、検体の受入れ、準備および結果の伝達などのシステムが一応できあがっており、また検体収集にも協力的である。ただし、院内ではヘルスワーカーの臨床検査の意義について認識が不十分であり、検体数の増加がなかなか見込めない状況である。

#### (3) サリマ地区妊婦検診

当プロジェクトの最初の総合的な調査として、サリマ地区の妊婦の健康調査を行った。これは、妊婦が健康状態に関してハイリスクの状態にあり、その実態を知ることには大きな意義があること、また当調査に含まれる種々の臨床検査の実施を通じて、CHSUスタッフのトレーニングに役立つこと、SDHのヘルスワーカーとの間に円滑なコミュニケーションを確立することなどを目的としたものである。調査は本年4月3日より開始し、5月9日までの計17日間のべ509人を対象として、詳細な問診および検尿、マラリア、住血吸虫、総蛋白、アルブミン、RPR、TPHA、HBs、HTLV1、HIVなどの臨床検査を行った。なお当調査では、分娩出産結果および新生児の状態を把握するために、別に調査用紙を配布し、現在これを回収中である。

#### (4) ペンバ地域におけるヘルスセンター建設に関する協力

サリマ地区において公衆衛生活動を行うために、プロジェクト・サイトの選択を検討している際に、ペンバ地域にはヘルスセンターがなく、またその他の医療施設もないことを知るに至った。以前より、この地域にヘルスセンターを建設するためにSDH院長はマラウイ政府や国際機関と折衝を重ねてきたが、いまだに実現の見通しはないという。そこで現在、日本の援助のひとつである「草の根無償資金協力事業」を通じてヘルスセンター建設が可能かどうか検討中であるが、その見通しは明るいようである。もし、ペンバ地域に新しいヘルスセンターが建設されれば、こ

れを拠点にして、当プロジェクトによる公衆衛生活動を展開する予定である。

(5) サリマ地区における麻疹の流行

1995年7月はじめより、サリマ地区南部のデッサ東部地域において、麻疹の流行がみられた。9月7日現在で258例の報告があるが、幸い死亡例はない。サリマ地区では、1990年にも同北部で442例の麻疹の流行がみられ、そのうち15例(3.4%)が死亡している。今回の麻疹流行で死亡例がみられない理由として、麻疹ワクチンの接種が大きく関与していると考えられるが、今回の麻疹流行の結果を踏まえてサリマ地区におけるEPIの体制について調査検討を行う予定である。

3-1-4 機材供与

現在までに供与された機材はプロジェクト初年度の1994年度予算によるものであり、1995年度の機材はいまだ到着していない。

3-1-5 日本におけるカウンターパート研修

(1) Mr. Kumwenda (医療行政管理)

当プロジェクト最初のカウンターパート研修としてCHSU所長のMr. Kumwendaが日本を訪れた。期間は1995年3月2日から1995年3月17日までの16日間で、その間国立公衆衛生院、順天堂大学、沖縄保健所などの諸機関で視察研修を行った。

(2) Mr. Chisamba (微生物学)

Mr. ChisambaはCHSUの結核を担当する臨床検査技師(Senior Laboratory Technician)であり、1995年3月25日より1995年8月31日までの6ヵ月間、日本において臨床検査に関する研修を行った。研修機関は東京都立病院、国立療養所東京病院、東京女子医大、聖マリア病院などである。

(3) Ms. Butao (生化学)

Ms. ButaoはCHSUの生化学検査部門の担当者であり、1995年9月3日より6ヵ月間の研修の予定である。現在、順天堂大学で生化学検査を中心に研修中である。

3-1-6 その他

(1) 各種施設視察

プロジェクトの開始にあたり、Kamuzu Central Hospital (1994年10月19日)、Bottom Hospital (1994年10月18日)、Queen Elizabeth Central Hospital (1994年10月27日)の各主要医療施設を視察した。

(2) 国際機関等との連携

毎月1回開かれる保健医療セクターのドナー会議に参加し、保健医療に関する情報交換を定期的に行っている。また、必要に応じて、IUATLD(結核)、UNICEF(母子保健)、WHO(HIV/AIDS、CDD)、USAID(マラリア)、AIDS Secretariat(AIDS)およびNGO“HOPE”(AIDS)などの国際機関等と連携し、情報交換や共同作業を行ってきた。

### (3) 小早川国内委員長訪マ

当プロジェクト発足初年度に当たり、当初計画の妥当性の評価とEPIプロジェクトの指導を目的に、小早川国内委員長が1995年5月23日より1995年6月4日までマラウイを訪問した。

### 3-2 建物施設等

1988年に世界銀行の融資により建設されたCHSUは、プロジェクト活動の本格化に伴い、やや手狭になっている。今後、供与機材の搬入や収集検体の保管場所の確保のためにも、新たな施設の増設の検討が必要であろう。

また、SDHは実験室天井に穴が空いていたり、異臭がするなど、生化学・微生物実験を行う環境としては、改善の余地があると思われる。

### 3-3 専門家派遣

#### (1) 長期専門家

氏名	指導科目	派遣期間	赴任時現職等
中野 博行	チーフアドバイザー	1994年10月4日 ～1996年10月3日	聖マリア病院
中川 公輝	業務調整	1994年9月27日 ～1996年9月26日	青年海外協力協会
秋葉 敏夫	微生物・ウイルス 免疫学的検査	1994年9月27日 ～1996年9月26日	—
山崎 裕章	生化学・血液 学的検査	1994年9月27日 ～1996年9月26日	青年海外協力協会
斉藤 智子	疫学	1994年9月29日 ～1996年9月28日	青年海外協力協会

#### (2) 短期専門家

氏名	指導科目	派遣期間	赴任時現職等
小早川隆敏	EPI計画	1995年5月21日 ～1995年6月9日	東京女子医科大学
藤木 明子	結核検査評価	1995年8月11日 ～1995年9月1日	結核予防会結核研究所

### 3-4 研修員受入

	氏名	指導科目	研修期間 (研修先)	研修時現職等
1	Mr. Newton Isaac KUMWENDA	医療行政管理	1995年3月2日 ～1995年3月17日 (国立予防衛生研究所 国立公衆衛生院 順天堂大学 聖マリア病院)	Ministry of Health Officer-in-Charge
2	Mr. Wright James CHISAMBA	微生物学	1995年3月28日 ～1995年8月29日 (都立衛生研究所 順天堂大学 国立療養所東京病院 東京女子医大 聖マリア病院)	CHSU Senior Laboratory Assistant
3	Ms. Dorri BUTAO	生化学	1995年9月5日 ～1996年2月3日	Ministry of Health Biochemist

平成7年11月以降の受入予定者

Mr. Alex Grant SIYASIYA	微生物学	CHSU Laboratory Assistant
----------------------------	------	------------------------------

### 3-5 資機材供与及び利用状況

平成7年度供与機材は未だ到着しておらず、プロジェクト活動に支障をきたしつつあった。また、最低限度必要な試薬や医薬品も不足しており、早急な対策が必要である。また、些細な備品の不足や修理困難な状況によってもプロジェクト活動が制限されてしまうこともあり、対応を考える必要があるだろう。

#### 4. 暫定実施計画（T S I）及び詳細年次計画

(附属資料①参照)

ミニッツには定型の他に詳細な活動項目と予定を記したものをアネックスとして添付した。

## 5. 合同委員会 (JCC Meeting) 報告

(附属資料②参照)

### 5-1 討議事項

Kamuzu Central Hospital (KCH) の取扱いについては、マラウイ側から再三協力対象とするよう申し入れがあったが、本プロジェクトとの関わりを考えると、KCHへの協力は妥当なものではないと調査団から説明した。

### 5-2 SDHの実施体制の確認

設置されている機材や試薬類も十分でなく、また建物もかなり痛んでいるようである。現在、本病院にはプロジェクト専門家は常駐していない。

### 5-3 実施上の問題

#### (1) カウンターパート問題

CHSUの体制は、所長が1994年12月までアメリカに長期出張しており代行者であるMr. サランボが事務を総括しているが、実際には検査ラボの主任(Mr. チントロ)が実権を握っている。Mr. チントロはプロジェクト開始以降常に日本側専門家チームに対して非協力的な態度をとっており、また部下に対しても専門家チームとの協力活動を妨害する行動をとってきた。今回調査団は、専門家チーム及びカウンターパートから事情を聴取し、保健省保健局長のMr. サンガラに改善を求めた。

同局長は実態を把握しておらず、同申し入れに対して驚きを示し、可急的速やかに、善処する旨日本側に回答した。

本調査団の協議ミニッツ署名後に、小早川団長及び石井団員が在ザンビア日本大使館に調査報告のためマラウイを離れた後、前DHOのDr. Van Dessel氏が本プロジェクトに対する批判文書を保健省に対して提出していたことが判明した。

これに対して、プロジェクト側は全く根拠なき批判であると反論し、数度話し合いを行ったが、決着せず、最終的にはプロジェクト活動を中断してしまう事態に陥ったが、その後の話し合いの結果、活動は正常化した。

#### (2) サリマ地区における公衆衛生活動に関する協議

SDHにおける検体の収集については、徐々に収集検体数が増加しており、長期専門家の配置により、さらに活動が強化されることが期待される。

#### (3) 国家エイズ計画 (National AIDS Programme) について

AIDS問題は非常に深刻であり、今後も検査体制の強化が必要であると判断されたが、一方、人権問題にもふれるところであり、当国国家エイズ計画と連携した慎重な対応が必要と判断される。

#### (4) 感染症対策特別機材供与について

同国に対しては、平成元年度から7年間に亘って、感染症対策特別機材としてBCG、麻疹のワクチン及び車両、冷蔵庫などのEPIの関連機材を供与してきており、同国の予防接種率の向



上に大いに貢献してきた。

しかしながら、保健予算の不足から同国による自立的自助的供給体制の確立には至っていない。従って、EPI 関連機材の継続的供与は、当該プロジェクトの成否を握る鍵であり、切に望まれる。

#### 5-4 主な協議決定事項

これまで、R/Dに明記されていなかった、サリマ地区での公衆衛生活動の実施及び他の国際協力機関との連携の強化の2点について記載した。



## 附 属 資 料

- ① 協議議事録（ミニッツ）
- ② JCC Meeting 議事録



① 協議議事録 (ミニッツ)

Minutes of Discussions

between

The Japanese Consultation Team

and

The Authorities Concerned of the Government of the Republic of MALAWI

on the Japanese Technical Cooperation

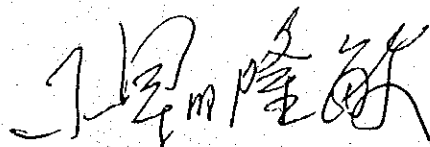
for the Community Health Sciences Project

The Japanese Consultation Team (hereinafter referred to as the "Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Takatoshi KOBAYAKAWA, Professor and Chairman, Department of International Affairs and Tropical Medicine, Tokyo Women's Medical College, visited the Republic of Malawi from November 12 to November 26, 1995 for the purpose of planning and consultation on the Community Health Sciences Project (hereinafter referred to as "the Project").

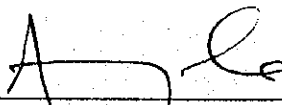
During their stay in the Republic of Malawi, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Malawi authorities concerned in respect of the desirable measures to be taken by both Governments for the successful implementation of the Project.

As a result of the survey and the discussions, both parties came to a tentative agreement of the matters referred to the document attached.

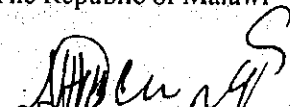
Lilongwe, 20 November 1995



Dr. Takatoshi Kobayakawa  
Leader,  
Consultation Team,  
Japan International Cooperation  
Agency, Japan



Dr. Winston B. Mukiwa  
Principal Secretary,  
Ministry of Health  
The Republic of Malawi



Mr. Hamed P. Kawonga  
Senior Deputy Secretary,  
for the Treasury,  
Ministry of Finance  
The Republic of Malawi

The Attached Document

Attendants of the JOINT COORDINATING COMMITTEE MEETING in 1995

Japanese side:

Japanese Consultation Team

Dr. Takatoshi KOBAYAKAWA Professor and Chairman, Department of  
(Leader) International Affairs and Tropical Medicine, Tokyo  
Women's Medical College

Mr. Yoshio IDE Vice President, St. Mary's Hospital  
(Hospital Management)

Dr. Akira KANEKO Associate Professor, Department of International  
(Malaria) Affairs and Tropical Medicine, Tokyo Women's  
Medical College

Mr. Yojiro ISHII Deputy Director, Second Medical Cooperation  
(Cooperation Planning) Division, Medical Cooperation Department, JICA

Mr. Yoichi NAKABAYASHI Staff, Second Medical Cooperation Division,  
(Cooperation Study) Medical Cooperation Department, JICA

Embassy of Japan

Mr. Mitsunori Yuuki First Secretary, Embassy of Japan in Lusaka

Japanese Experts

Fields

Long-term Experts

Dr. Hiroyuki NAKANO Chief Advisor  
Dr. Toshio AKIBA Virology (Virology, Biochemistry, Immunology)  
Mr. Hiroaki YAMAZAKI Medical Technology (Microbiology, Haematology)

Ms. Tomoko SAITO Epidemiology  
Mr. Kimiteru NAKAGAWA Coordination

HPK

The Attached Document

Attendants of the JOINT COORDINATING COMMITTEE MEETING in 1995

Malawian side:

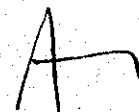
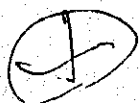
Dr. W.O.O. Sangala	Chief of Health Services
Dr. D.S. Nyangulu	Controller of Clinical Services and Coordinator of the TB Programme
Mr. M. Ngwira	RHO (C)
Mr. B.F.L. Matatiyo	Research Officer
Mr. F.M.L. Salaniponi	Acting Officer In-Charge of CHSU
Mr. F.E. Chintolo	Principal Microbiologist (CHSU)
Dr. W.C. Nkhoma	Epidemiologist (CHSU)
Mr. B.S. Shaba	Programme Manager of Schistosomiasis Control (CHSU)
Mr. L. Lokosang	HIS Specialist (CHSU)
Mr. K. Nindi	CDD Programme Manager (CHSU)
Mr. G.G. Chimphonda	AFO AIDS Secretariat
Mr. C. Ziba	Malaria Programme Manager (CHSU)
Mrs. E.R. Maganga	Assistant ARI, TB Programme Manager (CHSU)
Mr. W.J. Chisamba	Senior Laboratory Assistant (CHSU)
Mr. A.G. Siyasiya	Laboratory Technician (CHSU)
Mr. A.C. Kasalika	Laboratory Technician (CHSU)
Mr. J. Michongwe	Laboratory Technician (CHSU)
Mr. A.F.N.D. Phiri	Laboratory Technician (CHSU)
Mr. I. Chakanika	Laboratory Technician (CHSU)
Mr. L. Zungu	Laboratory Technician (CHSU)

Salima District :

Dr. P. Van Dessel      Former Salima District Health Officer

International Organisation :

Dr. M.T. Schick      WHO, Swiss Disaster Relief Unit



## I. General Review

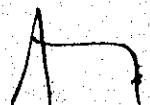
The Project, which was initiated on September first, 1994 and planned to continue for a period of five (5) years, was established for the purpose of strengthening the function of Community Health Sciences Unit (CHSU) as the national institute of health with the main emphasis on infectious diseases in the Republic of Malawi.

In accordance with the Record of Discussions (hereinafter referred to as "the R/D") signed on July 22nd, 1994, the JCC acknowledged the followings :

1. JICA has sent five (5) long-term experts and two (2) short-term experts to the Republic of Malawi and has accepted three (3) counterparts for technical training in Japan, and also has provided the equipment equivalent to JPY ten (10) million for the smooth implementation of the Project. (Annex- 1, 2, 3)
2. Both Japanese and Malawian sides reviewed the achievement of the activities made so far regarding the implementation of the Project.
3. Based on the mutually recognized present state of the Project, both sides confirmed the continuation of cooperation between the Japanese government and the Malawian government for the further progress of the Project, and created a feasible implementation plan for the Project.



HPK





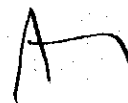
## II. Summary of Discussions

The meeting noted that the following activities have been accomplished since 1994.

- (1) To formulate implementation plannings for the practice of fundamental laboratory examinations.
- (2) To formulate implementation plannings for the execution of health situation analysis in the Salima district.
- (3) To straighten up the laboratory conditions for the initiation of clinical examination in CHSU and Salima District Hospital.
- (4) To construct and facilitate infrastructure of CHSU.

In accordance with the R/D, both sides agreed upon the following matters.

- (1) Acknowledged the 'Tentative Schedule of Implementation (TSI)'. (Annex - 4 - 1 ~ 7)
- (2) Implementation of disease control initiatives with public health importance in the Salima district.
- (3) To further promote technical communication with international organisations as well as other bilateral agencies.



HPK

ANNEX - 1

List of Japanese experts dispatched by JICA  
(September 94 - October 1995)

1. Long term experts

Field	Name	Period
Chief Advisor	Dr. Hiroyuki NAKANO	94.10.04 - 96.10.03
Virology (Virology, Biochemistry, Immunology)	Dr. Toshio AKIBA	94.09.27 - 96.09.26
Medical Technology (Microbiology, Haematology)	Mr. Hiroaki YAMAZAKI	94.09.27 - 96.09.26
Epidemiology	Ms. Tomoko SAITO	94.09.29 - 96.09.28
Coordination	Mr. Kimiteru NAKAGAWA	94.09.27 - 96.09.26

2. Short term experts

Field	Name	Period
EPI Programme	Dr. Takatoshi KOBAYAKAWA	95.05.21 - 95.06.09
Evaluation of TB laboratory works	Ms. Akiko FUJIKI	95.08.11 - 95.09.01

HPIK

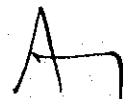
ANNEX - 2

List of Malawian Counterpart Personnel Sent and Scheduled to Japan  
(September 94 - October 1995)

Field	Name	Period
Administration	Mr. Newton Isaac KUMWENDA	95.03.02 - 95.03.17
Microbiology	Mr. Wright James CHISAMBA	95.03.28 - 95.08.29
Biochemistry	Ms. Dorris BUTAO	95.09.05 - 96.02.03



HPK



ANNEX - 3

List of Equipment Donated by the Government of Japan in 1994  
(September 94 - October 1995)

Machinery, equipment and other materials necessary for the implementation of the Project have been provided in the fiscal year 1994.

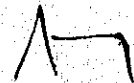
The following is a list of the main equipment provided to CHSU.

(1) TOYOTA LAND CRUISER	1
(2) Photocopier	1
(3) FAX Machine	1
(4) Uninterruptible Power Supply	2
(5) Air conditioner	1
(6) Office Desk	5
(7) Chemicals and Reagents	
(8) Computer Units	4
(9) Refrigerator	2

TOTAL : JPY 10,000,000.- (approximately USD 100,000)



HPK



ANNEX - 4-1 TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION OF THE COMMUNITY HEALTH SCIENCES PROJECT

File Name : TS11/ACP95

Year	1994	1994	1995	1995	1996	1996	1997	1997	1998	1998	1999	1999
Fiscal Year												
1. Mission Team Consultation Advisory Equipment Maintenance Evaluation				←--→		←--→						
2. Japanese Experts (Long term) a. Chief adviser b. Virologist (Biochemistry, Virology) c. Medical Technologist (Microbiology, Haematology) d. Epidemiologist e. Coordinator f. Other related fields mutually agreed on as necessary (Short term) a. Bacteriology b. Virology c. Malaria d. Tuberculosis e. HIV f. Community Health g. Other related fields mutually agreed on as necessary				←--→	←--→	←--→	←--→	←--→	←--→	←--→	←--→	←--→
3. Counterpart Training a. bacteriology b. Biochemistry c. Epidemiology d. Other related fields mutually agreed on as necessary				←--→	←--→	←--→	←--→	←--→	←--→	←--→	←--→	←--→
4. Equipment Supply	Safety cabinet Incubator Autoclave Hormone assay equipment	Microscope Vehicle Echodiagnostic tool Flame Photometer Blood cell counter Video camera TV monitor Generator	Malaria diagnosis Microscope HIV test kits ELISA reader Vehicle Spectrophotometer	Flamephotometer Colony counter Blood cell counter	Virology reagents Immunology reagents Bacteriology reagents Other related equipment	Virology reagents Immunology reagents Bacteriology reagents						

HPK

⊕

ANNEX - 4 - 2 TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION OF THE COMMUNITY HEALTH SCIENCES PROJECT

VIROLOGY & IMMUNOLOGY SECTIONS

Laboratory activities	1994 (F.Y.)	1995	1996	1997	1998	1999
Establishment of the referral function of HIV test	Planning and setting lab items	Initiation of referral function in Lilongwe and Salima	Strengthening referral function	Expansion to other districts		
Sero-survey on measles virus antibody	Preparation of survey	Sero-survey in Salima	Assessment of cold chain	Strengthening cold chain system in Salima		
Research on HTLV1 prevalence	Designing research protocol	Research implementation in Salima	Analysis of clinical aspect of HTLV1 in KCH & QECH			
HBV prevalence survey	Planning of survey	Conducting survey on HBsAg, HBsAb and HBeAg	→			
Rota virus survey	Preparation of survey	Primary survey in KCH	Expansion of survey to Salima Hospital			
HCV sero-prevalence survey		Preparation for survey	Conducting survey			
Establishment of the network for polio case detection	Planning and coordination with other organisations	Provision of items and staff training in Salima		→		
Remarks						

✓

HPK

④

ANNEX - 4 - 3 TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION OF THE COMMUNITY HEALTH SCIENCES PROJECT

BIOCHEMISTRY SECTION

Laboratory tests	1994 (F.Y.)	1995	1996	1997	1998	1999
Establishment of referral function of biochemical tests	Planning test items to be introduced	Introduction of manual method for glucose, creatinine, total protein and bilirubin. Procurement of autoanalyzer (TP, AST, ALT, Bil, Alp, Alb, Chol, Glu, Urea, Creat, Na & K)	Strengthening feedback mechanism with Salima Hospital on biochemical tests	Development of Salima Hospital Lab for basic biochemical tests	Expansion of referral function to other districts	→
	Training basic lab technique					
Requirements	1994	1995	1996	1997	1998	1999
Basic reagents, glassware and equipments	→					
Autoanalyzer		→	→			
Flamephotometer		→	→	(Salima) →		
Remarks	Provision of adequate man power and S&E for Salima Hospital					

✓

HPR

①

ANNEX 4 - 4 TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION OF THE COMMUNITY HEALTH SCIENCES PROJECT

MICROBIOLOGY & TB SECTIONS

Laboratory tests	1994 (F.Y.)	1995	1996	1997	1998	1999
Planning priority for specimens and selection of media	↔ (MB)	↔ (TB)				
Training basic technique for detection of organisms	↔ (MB)	↔ (TB)				
Collection of specimens at Salima District Hospital		↓				
Collection of specimens at other hospitals in the proximity of CHSU						↓
Establishment of examinations for food and water						↓
Requirements	1994	1995	1996	1997	1998	1999
Autoclave		↓				
Consumables for haematological examinations						↓
Safety cabinet		↓				
Remarks						

(F)

HPIL

A



ANNEX 4 - 5 TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION OF THE COMMUNITY HEALTH SCIENCES PROJECT

PARASITOLOGY SECTION

	1994 (F.Y.)	1995	1996	1997	1998	1999
Laboratory tests		→	→	→	→	→
Planning test items		→	→	→	→	→
Strengthening basic technique for parasitology		→	→	→	→	→
Improvement of malaria diagnosis		→	→	→	→	→
Collection of specimens at Salima & field survey		→	→	→	→	→
Introduction of new research			Mosquito for malaria →	Snail for schistosomiasis →		
Strengthening laboratory function in Salima District Hospital						
Requirements	1994	1995	1996	1997	1998	1999
Fluorescent microscope		→	→	→	→	→
Consumables for parasitological examinations		→	→	→	→	→
Remarks	Basic laboratory examinations can be performed in Salima District Hospital after 1997.					

HS

HPK  
- 29 -

A

ANNEX 4 - 6 TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION OF THE COMMUNITY HEALTH SCIENCES PROJECT

HAEMATOLOGY SECTION

	1994 (F.Y.)	1995	1996	1997	1998	1999
Laboratory tests						
Planning test items		→	→			
Training basic technique for haematology		→	→			
Introduction of blood cell counter		→	→			
Establishment of thin blood film examination		→				
Collection of specimens at Salima District Hospital				→		
Collection of specimens at field survey						→
Requirements	1994	1995	1996	1997	1998	1999
Blood cell counter		→ (CHSU)		→ (Salima)		
Consumables for haematological examinations						→
Remarks	Basic laboratory examinations can be performed in Salima District Hospital after 1997.					

①

HPK

✓

ANNEX 4 - 7 TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION OF THE COMMUNITY HEALTH SCIENCES PROJECT

SALIMA DISTRICT

Public health activities	1994 (F.Y.)	1995	1996	1997	1998	1999
Epidemiological surveillance activities	1. Identification of health issues 2. Training of health workers	1. Implementation of epidemiological surveillance 2. Analysis and evaluation of the results from the surveillance 3. Feedback to the community				→
Deployment of public health activities						→
Requirements	1994	1995	1996	1997	1998	1999
Stationery	→	→				
Polaroid camera & film	→					
Video camera	→					
TV monitor		→				
Generator & petrol		→				
Radiocassette tape recorder		→				
Video cassette recorder		→				
Remarks						

(1)

HPR

→

## ② JCC Meeting 議事録

### JCC Meeting 議事録

#### MEETING ON JOINT COORDINATING COMMITTEE MEETING FOR JICA-CHSU PROJECT 1995.

Meeting started at Service Dr W. Sangala.

9 : 10 a.m chaired by Chief Health Service(CHS) Dr. W. Sangala.

Self introductions followed.

Leader of JICA Consultation Mission Team was called upon to make introductory remarks.

Objectives of consultations is to review the implementation of the JICA-CHSU project this far. Activities already carried out include training of Malawian staff in Japan, a survey of pregnant women in salima and provision of some laboratory equipment. participation of Malawi staff was appreciated.

Function of Meeting was confirmed as a Joint-Coordinating Committee for JICA-CHSU project. 1995

CHSU re-visited the objectives and project as agreed in the Record of goals of the JICA-CHSU discussions .

Report of activities of the project for the past one year.

#### OBJECTIVES

- 1 Strengthen CHSU Laboratory
- 2 Establishment of epidemiological surveillance at Salima
- 3 Establishment of referral service between CHSU and Salima

#### Activities Done

##### 1. CHSU

Construction of fence, car park and new incinerator.

Establishment of Cold room has been delayed.

Consumable and equipment provided to CHSU so far total 250 item.

TB laboratory workshop with support of a Japanese expert.

TB laboratory equipment ordered and expected.

## 2 IN SALIMA

Pregnant women survey in Salima District Hospitals May 1995 to know health status of these women

Twice weekly transport arrangement to Salima to collect specimens .

Supplied some equipment and consumable to Salima laboratory .

Support for construction for a health center in T.A. Pemba Salima responding to an expressed need and efforts in the area. This is an ongoing project.

## 3. Counterpart Training in Japan

Kumwenda : Acting Officer-In-Charge March 1995

Chisamba : 6 months training course

Ms Doris Butao: Presently doing a 6 months course in Clinical biochemistry.

4. Collaboration with other organizations and governmental sections in health related issues.

5. Some experts from Japan have visited Malawi under JICA-CHSU project .

## DISCUSSIONS

It was noted that line of communication between JICA staff and Salima district staff are not very congenial as line of command seems to have been violated. JICA-CHSU team are taking steps to sort the problem and strengthen out the differences and misunderstandings.

Issue of building a health center at Chagunda T.A. Pemba. Salima is under discussion, but JICA has moved positively to source financial support from a Japanese NGO. Quotations and Consultations are encouraged including consultations with the Controller of Health planning services.

JICA-CHSU project has the potential to include vaccine potential e.g. measles outbreaks. Plans will be included in the near future to survey the cold chain system in Sallima and support to correct deficiencies where possible.

It was also pointed out by CCS that the concerns from Salima on lack of resources for EPI services may reflect a wide-spread problem in the country and should be taken very seriously. The department of preventive Health Services should examine the situation on the ground countryside soon.

The Chief advisor JICA side of JICA-CHSU project then run down a published Implementation plan of the project. These included:

(a) Project is to send three more counterparts to Japan in 1995 (administrative, microbiology and TB).

(b) Equipment to strengthen CHSU Laboratory has been ordered so have some commodities specific activities to include virological, biochemical and immunological methods.

(c) Strengthen referral function between CHSU-Salima District Hospital will be extended to other nearby laboratories in other districts.

(d) Implementation of disease control initiatives with public health importance in Salima district.

The question of short term expert was put forward as to elaborate what role they would have. From the answer it was not clear as to what definite role they would play.

The Schistosomiasis Programme Manager was concerned with the magnitude of Schistosomiasis in Salima and wondered what sort of plans were in pipe line for schistosomiasis intervention in Salima. since over 40-80% of children are infected with schistosomiasis. No clear plans have been made for schistosomiasis.

The CHS also commented on the referral system between Salima-CHSU should be worked into because of its sustainability as the government may not be possible to sustain the present arrangement.

The issue of improving the transport system within the model district was very pertinent. It was resolved that JICA would look into this communication i.e radio communication.

Need for collaboration in advanced laboratory tests with KCH is accepted and should be encouraged

The JICA side indicated that there will be a signing ceremony to confirm record of discussion at a dinner on Monday 20th November 1995. The record would first be discussed between the JICA-CHSU teams.

Finally, CHS closed the meeting at 11:30 a.m.











JICA